

絶滅危惧類 ミソハギ科

ミズマツバ

Rotala pusilla Tulasne

全国カテゴリー；絶滅危惧類

【選定根拠】 全ての個体群で個体数が減少 全ての生育地で生育条件が悪化

【形態】 草高5～10cm。茎は分枝して基部から地面をはい、ロゼット状になる。葉は線形で各節に3～4枚ずつ輪生する。8～10月、葉腋に淡紅色の小花をつける。花は鐘形で径0.8mm、5裂したがく筒が花冠のようになったものである。一年草。

【分布】 本州・四国・九州・琉球、朝鮮・中国・フィリピン・インド・中央アジア・アフリカに分布する。

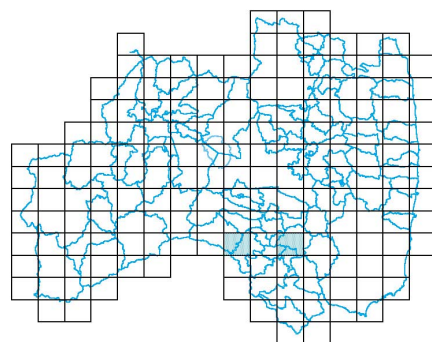
【県内の分布、生育状況】 低地の水田や休耕田、湿地などにまれに生育する。石川町・西郷村に分布している。

【生育に影響を与えている要因】 農薬による除草、土地造成、遷移進行、圃場整備

【特記事項】 水田では低農薬による耕作を継続し、休耕田では水管理や田起こしなどの管理作業を行うのが望ましい。手を加えずにおくと植生遷移が進行し、消滅するおそれがある。

【主要文献】

福島県植物誌編さん委員会．1987．福島県植物誌．481pp．福島県植物誌編さん委員会．いわき．



絶滅危惧類 アカバナ科

ヒメアカバナ

Epilobium fauriei Lev.

【選定根拠】 全ての個体群で個体数が減少

【形態】 高さ3～20cmの多年草。茎はときに株状となり、わずかに枝を分ける。葉は線形～線状楕円形、鈍頭、縁に少数の低鋸歯があり、長さ1～3cm、幅1～4mm、葉腋に肉芽をつけることがある。花期は7～9月、花弁は淡紅色で先は2浅裂、柱頭は棍棒状。さく果は細長く2～3.5cm、果柄は長さ1～3.5cm。

【分布】 北海道・本州(鳥取大山以北)千島に分布する。

【県内の分布、生育状況】 県内高山の湿った砂れき地に生育する。

【生育に影響を与えている要因】 遷移進行

【特記事項】 生育地周辺の環境を保全することが望ましい。

